

看護実践能力の向上に向けた技術習得のモデル化と教育プログラムの構築



【中野キャンパス】ヒューマンケア学部 看護学科 教授

河合 桃代 Kawai Momoyo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 技術習得・看護実践能力・技術教育・ワークショップ・追跡調査



研究の概要

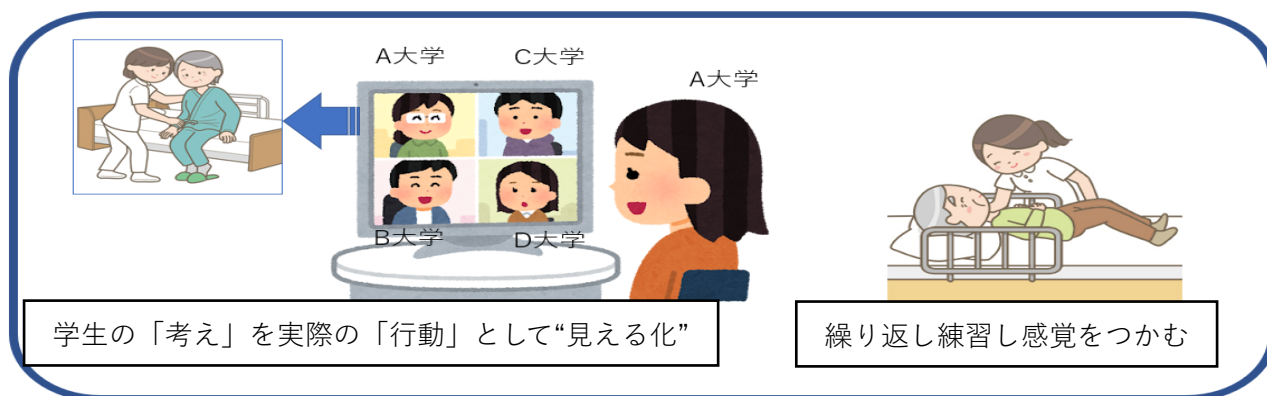
SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

看護技術を授業で学び始める看護系大学 2 年生を対象に、新人看護師となるまでの 4 年間を追跡する縦断調査をおこなった。看護技術を習得するための機会としてワークショップを開催し、繰り返し看護技術を練習することで、どのように習得していくのかを研究とした。この研究により看護技術の教育の在り方を考え、教育モデルを考案できる。

教育 DX が進む中、学生が考えた看護を、遠隔にいる看護師役（アバター）がその場で実演した。結果として、学生の頭の中の「考え」を、実際の「行動」として“見える化”することで、実習前にじっくり考える時間が生まれた。看護技術の練習は、対面だけでなくオンラインでも可能であることが見えてきた。具体的には、観察力やコミュニケーション力を、繰り返し考え、試すことで、学生の看護の選択肢は着実に広がることがわかっている。

繰り返すことで 技術を身につけていく



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究により、看護基礎教育での看護技術教育についての基盤研究になりえることや、継続教育において基礎教育とのつながりを示すことにもなりえる。看護師のモチベーションの一つに、看護技術が捉えられることもあり、看護技術教育は看護師の専門性の一つであることから、基礎教育での看護技術教育の在り方を考える研究である。看護師になったときに看護技術を一つでも習得していれば、どの患者に対しても自信をもってケアを提供できることが期待できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】

- ・「看護学生の観察技術教育におけるアバターの有用性 一大学横断任意参加型ワークショップを通して一」
- ・「看護学生の「動きの援助」技術習得過程 一大学横断任意参加型の看護技術ワークショップを通して一」
- ・「熱布バックケアを体感する反復練習により編み出された看護学生の工夫」